



尾久八幡

令和7年度4月号
令和7年4月12日発行
荒川区立尾久八幡中学校
校長 稲葉 裕之

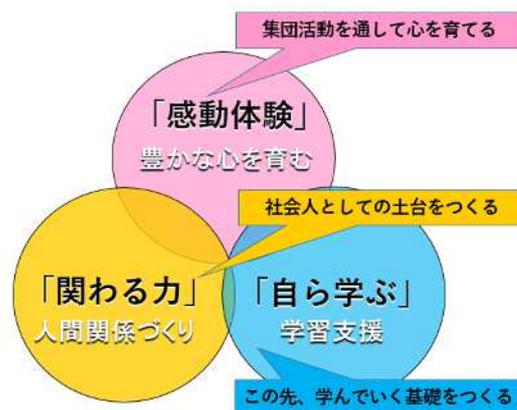
本年度のスタートにあたり

校長 稲葉 裕之

4月8日(火)、第63回入学式が行われました。今年は137名の1年生が入学、これにより3つの学年の生徒が揃い、令和7年度の尾久八幡中学校がスタートしました。

これから1年間、八幡中学校の教育の充実につとめてまいります。保護者、地域の皆様には、ご理解・ご協力をいただきますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

さて、年度のはじめに際し、本年の本校の教育について、入学式の式辞を抜萃し、お伝えいたします。



* * * * *

ご入学おめでとうございます。私には、皆さんにこうあってほしいという願い・思いがあります。それは皆さんの“幸せ”です。これからの中学3年間、明るく楽しく豊かに、今この時が幸せなものであってほしい。しかし、それだけでなく、将来、その先の人生も幸せであってほしい。“将来の幸せ”とは、中学校卒業後の進学先で、社会に出て仕事をするなかで、その一員としてやっていけるということです。義務教育最後3年間である中学校生活は、そうした“将来の幸せ”のために、社会で通用する力を身につける期間でもあります。そのために本校は、「文武両道」「品格・礼節」を校訓として掲げています。これを理解しやすくするため、入学に際し、心がけてほしいこととして2つお話しします。

一つは「自ら学ぶ」ということです。みなさんは、一人一人それぞれの良さ、限りない可能性を持っています。しかし、それも磨くことを怠れば、埋もれてしまいます。それを磨き、伸ばすには、まず自分から物事に取り組むことが大切です。自分から学ぶ、人から学ぶ、さらに体験を通して学ぶ。「文武両道」は、そうした自分を磨く姿勢によって成されるものであり、この姿勢は生涯にわたって生きる、自身の力となります。

二つ目は、人と「関わる」ということです。人は誰も夢や希望、そして悩みもあり、また、それぞれに個性があります。その上で、共に同じ社会の中で生活をしています。ですから、自分だけのことを考えていては、うまくいきません。互いを認め、尊重しながら、支え合うことが大切です。それは、小さな社会=学校でも同じです。共に生活する“相手”がいるということを忘れず、誰かが困ったり、悩んだりしたら思いやりを持って接し、助け励ます。「品格・礼節」は、他者への敬意が基本にあり、このように人と関わっていくことが、それを実践することにつながります。

「自ら学ぶ」、思いやりを持って人と「関わる」、この2つを心にとめ、中学校生活を充実したものにしていってください。

* * * * *

本年度の学校経営方針についても、掲載いたしました。今年一年間、よろしくお願い申し上げます。